

2009 年度 関西学院高等部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価（以下、自己点検・評価）を実施する制度を構築しています。

その第 2 回目である 2009 年度は、それぞれの学校が共通の評価項目として学校評価ガイドライン（文部科学省、2008 年 1 月 31 日付）で示された 12 項目の中から「教育課程・学習指導」「生徒指導」「安全管理」「研修（資質向上の取り組み）」「情報提供」を選び、さらに高等部は「キリスト教主義教育の実践」「自治活動」を加えて実施しました。2009 年度の実施にあたっては、それぞれの評価項目について生徒・保護者・教員のご意見を伺うためにアンケートを行い、客観性を高める工夫をいたしました。

回答いただきましたアンケートの結果を集計、分析したものを参考に自己点検・評価結果をまとめ、関西学院評価推進委員会（2010 年 3 月 26 日）において承認されましたのでホームページ上で公表いたします。

今回もアンケート冒頭で質問した「学校生活の楽しさ・満足度」については、生徒・保護者の多くに肯定的評価をいただきましたが、その他の質問を通じていくつかの課題も浮かび上がって参りました。関西学院高等部はこれからも自己点検・評価を通じて自らその課題を探り、その課題に誠実に向き合って改善することによって質の高い教育を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2010 年 3 月 26 日

関西学院高等部
部長 澄田 新

【教育課程・学習指導】

現状の説明

多くの生徒が推薦により関西学院大学へ進学する本校では、受験勉強の制約を受けることなく、深い学びを通して一人一人の知性を豊にすることを目標におく。

評価・分析（アンケート結果を含む）

アンケートによると、「教育課程についての共通理解」という項目に関しては、肯定的な回答の占める割合が教師 97%(質問3)・86%(質問4)、保護者 72%、生徒 78%と、ともに高い水準で行われていると感じている。また「生徒の学力・体力の的確な把握」に関しても、教師の 83%、保護者の 84%、生徒は教師、保護者と比べるとやや下がるものの 70%が肯定的な回答をしており、評価に関して概ね的確に行われていると感じている。

一方「各教科の特性に応じた授業の工夫」の項目では、「授業を通じて学力がついた」と感じていない生徒が 40%、「学校は生徒に学力の定着をはかっている」と思っていない保護者が 44%と、教師の思いに反して否定的な回答が多い。

また「個々のニーズや興味関心に応じた授業展開」に関しては、肯定的な回答が教師で 83%(質問8)、生徒で 70%を占めており、「質の高い興味深い授業を目指している(がある)」と感じているものの、「全体的にわかりやすい授業が多い」という質問では生徒の 49%が否定的な回答をしていることから、生徒は授業にさらなる分かりやすさを求めており、能力に応じた学びについての質問には保護者の 40%、生徒の 40%(質問9)・42%(質問10)が否定的な回答をしていることから、ともに能力に応じた対応をさらに望む傾向にあると言える。

「接続学部との連携」のうち「大学・学部に関する情報提供」の項目では教師で 91%、生徒で 73%が肯定的な回答をしており、ともに高いレベルで連携を実感できているのに対し、保護者のみが 61%に留まり、幾分低い結果となった。

改善の具体的方策

このように、進級・推薦・卒業・学部情報といった進路に関する情報の共有や認識はできているが、授業の理解や個別対応の充実といった学力向上への要望に対し、教師は生徒からの要望を丁寧に聴取する機会を設けることや、保護者に対する情報提供の変更なども含めて改善が必要である。

【生徒指導】

現状の説明

社会環境の激変により、子どもたちの生活環境も複雑に変化し、生徒の学校生活も大きく変わろうとしている。このような社会変化の要因は、多様化した社会構造の価値観の変化や情報社会がその一つと考えられる。また、社会を急変させた最たるものはネットであろう。ネットを取り巻く問題は年々変化を遂げ、大人の我々教師がなかなかついていけない現状もある。生徒とネット社会がつながる道具は「パソコン」から「携帯」に変わり、いつでも、どこからでもネットとつながることが可能となり、そのことから発生する問題行動が様々な形で表れてきている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

生徒指導に関する評価は、特に問題行動に対する対応において教職員は 83%が肯定的な回答をしている。問題行動を事前に防ぐための指導において肯定的な回答は、教職員で 78%（質問 19）、82%（質問 20）、89%（質問 21）であるが、ルール・マナーの明示においては昨年度より向上したが、肯定的な回答は 53%に留まっている。保護者・生徒のアンケートでは、教師の意識よりもすべての項目において低い評価に留まっている。肯定的な回答が、保護者については 71%（質問 10・規範意識の涵養）、74%（質問 11・問題行動への対応）、生徒については 39%（質問 14・ルールやマナーの明示）、55%（質問 15）、59%（質問 16・不正やいじめを許さない指導）であった。

改善の具体的方策

生徒指導とは、「生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現できるよう指導・援助を与える」ものであり、このアンケート結果を踏まえ、きめ細かく生徒とのコミュニケーションを図り、同時に保護者との連絡を密にして、より深く注意・指導を与えていかなければならない。

具体的には、授業・HR 活動の場において生徒の意見に耳を傾け、気になる生徒の保護者との連絡を頻繁に行う等の配慮が必要である。また、現状の説明で述べたように、「携帯」から発生するネットを取り巻く様々な問題に対応するため、教師はより研修・学習を重ね、時代に即した指導を心掛けていく必要がある。さらには、守るべき学校生活のルールやマナーを文書のみならず、これまで以上に注意・指導することにより周知徹底を図る必要がある。

【安全管理】

現状の説明

学校内外での安全管理においても、登下校時の交通事情のみならず「携帯」から発生する様々な問題に対処し始めているのが現状である。また校舎内への不審者侵入や防犯のために校舎入り口などに監視カメラを設置し、校内を巡回する警備員の配置などを行った。巡回警備員のみならず、授業の空き時間を利用して教員の教室巡回を行ってきた。2009年度は新型インフルエンザの流行により、本校でもかなり多くの感染者が出た。これによりスケジュールの変更や、学級閉鎖・学年閉鎖をせざるを得ない状況になった。

評価・分析（アンケート結果を含む）

安全管理に関する評価では、校舎内における安全指導・対応について教師・保護者・生徒共に高く評価している。アンケートではすべての質問において教職員は90%以上、保護者は85%以上、生徒は75%以上が肯定的な回答をしている。新型インフルエンザに対する学校の対応も高く評価していると言える。

校舎外における安全管理においては、教師・保護者・生徒共に少々の不安を感じさせる評価がなされている。特に低く評価されたのは、不審者の侵入を防ぐための監視カメラの設置や巡回警備員についての質問である。アンケートではこの質問に対して、保護者は48%、生徒は57%しか肯定的な回答をしていない。

改善の具体的方策

このアンケート結果を踏まえて、今後も防犯に努めていかなければならない。本校が開かれた学校である以上、様々な人が出入りすることになる。校舎内に入る時点で不審者かどうかを見分けるのは難しいかもしれないが、監視カメラや巡回警備員だけではどうしても限界がある。教員が日々目を配り、生徒にも教室施錠や貴重品の自己管理などの注意・指導を促していく必要がある。

【研修】

現状の説明

教員の研修については、国内での各研修会・研究会への参加 長期留学、短期出張を含む海外研修 国内長期研修（特別研修期間の利用） 研究成果の発表（「論叢」の発行）などが主な内容である。「国内での研修会・研究会」への参加については、学校（部長）からの指示、各教科・分掌からの参加要請、教員個人の参加など形態は様々である。学校としては、各研修会の案内文書を各分掌・各教員に回覧し、参加を勧奨している。主な研修会としては、カウンセリングに関連する研修会、人権教育・同和教育に関連する研修会、各教科の指導に関する研修会、生徒指導、教務、進路指導に関する研修会などが主要なものである。

「海外での研修活動」については、1年の学院留学、2年のリバース基金留学など、学院の留学制度を利用して長期の留学をするものと、夏休みなどを利用して短期の海外研修を行うことが主であり、前者に関しては、数年に一人、後者に関しては、毎年3名～5名が研修を行っている。

「国内での長期の特別研修」についても1年間認められており、学校のすべての校務から離れ、大学院などで専門的な研修を行っており、数年に1人位の割合で適用されている。

このような研修制度がありながら、教員の仕事が過密であり、思うように研修に取り組めていないのが現状である。そのため、教員の研修意欲が低下してしまうという問題もある。

「研究成果の発表」については、高等部教員の研究論文などが、研修紀要の形で「論叢」として毎年12月の発行で、現在五十五号まで発行されている。「論叢」は生徒全員、関学の各部署等に配布されている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

教員の研修会への積極的参加、ならびにその成果の授業への効果的還元については、教員が72%（質問27）、67%（質問28）、保護者は66%（質問17）と肯定的に評価しているが、生徒からの肯定的な評価は47%（質問22）と、否定的な回答が肯定的な回答を上回った。教員・保護者は肯定的ではあるけれども、現状では決して十分とは言えないという見方であると考えられる。生徒の評価では、教員が懸命に研修しているという側面が十分に見えていないというように考えられる。

外部への発信については、教員の評価は肯定的なのに対し、保護者、生徒ともに低く評価している。これは、教員の自己研修の成果が、生徒や保護者に認知されていないことを示している。

改善の具体的方策

教員の仕事が過密で思うように研修に取り組めないという問題を解決するには、学校から教員に対して参加を促進する方策が必要であり、今以上に、その研修成果を発信する機会が与えられなくてはならない。また、保護者・生徒に対して、教員の研修成果をもっと発信する方策が必要である。

具体的な方法としては、学校から一層の参加促進を行うこと、「論叢」だけでなく教師の研究成果を発表する講演会などの機会を作ることなどが望まれる。

【情報提供】

現状の説明

受験生に対しては、8月以降の私学団体や新聞社・民間学習塾主催の学校説明会のほか、10月と11月に各1回、本校独自の学校説明会を開催し、個別対応も行って学校の特色をアピールしている。さらに2009年からは9月の第一土曜日にオープンハイスクールを実施し、授業やクラブを体験できるようにした。資料としては学校案内を作成し、2010年度入試用から自治活動の項目等を加えた小変更を行って使用しているほか、学校説明会では約20分間のビデオ番組を使用している。

在校生に対しては年に2回、高等部ニュース「K.G.H. REVIEW」を発行し、院長・高等部長によるメッセージのほか、学校行事やクラブ活動の業績、学友会活動について広報活動を行っている。この広報紙は、4年以内の卒業生や学院諸機関にも配付されている。また、各クラブの業績については毎週の生徒集会で表彰が披露されている。

各学年においては適宜学年通信が発行され、各クラスでは担任の裁量においてクラス通信が発行されているケースもあり、学校生活の情報を提供している。また、高等部同窓会のホームページで高等部の活動が適宜報告されているほか、コンピュータ部を中心に学友会のホームページが運営されており、また独自でホームページを運営しているクラブもある。

評価・分析（アンケート結果を含む）

学校からの情報提供について、教職員のアンケートにおいては一般、保護者生徒向けいずれもしっかり行えているという結果(質問31~36のすべてで80%以上は肯定的な回答)が示されている。

それに対し、保護者は全体的に低い結果となっている。なかでも、家庭における生徒との会話から情報を得ることに関しての数値が最も低く、肯定的な回答が57%(質問21)しかない。しかし、保護者面談やクラブの保護者会など直接的なつながりに関しては肯定的な回答は73%(質問23)という高い数値を示している。

生徒に関しては全体的にさらに低く、全質問の平均はおよそ2.5を示す。なかでも特に低いのは、「学校の実情と一般的なイメージの一致」について(質問25)で、肯定的な回答は39%という結果となり、イメージと現実のギャップがあるようである。面談やクラブなどで必要な情報が提供されているかという問いについては、肯定的な回答が70%という値となっている。

改善の具体的方策

受験生向けの情報提供については、初めて行ったオープンハイスクールが奏功したといえ、より厳しさを増す高校受験情勢のなかで、引き続き学校の魅力の広報活動を地道に継続していく必要がある。

在校生向けの情報提供については、多数のクラブが活躍する現状にあって内容的には恵まれており、ホームページや広報紙により精一杯伝達されているといえる。ただし、それに甘んじることなく広報活動をより積極的に行っていく余地も残されている。

生徒による学校のイメージと現実とのギャップについては、学校の運営方針や根幹にも関わってくることであり、真剣に受け止めねばならない結果である。新入生対象に本校のイメージを調査し、把握しておく必要がある。

情報化社会に生きる生徒であり、また多感な時期でもあるので、引き続きクラスやクラブで綿密な指導・情報提供を行うほかにも、現状では一部のみが発行しているクラス通信の促進など、形がありながらも内面的な関わりを含む情報提供が求められているといえよう。

【キリスト教主義教育】

現状の説明

「キリスト教主義教育の理念の共有」と「推進」に関しては、教職員・保護者・生徒ともに概ね大切なものと理解していると思っている。高等部教育の根幹の部分が理解され、自覚されていることはキリスト教主義教育を基礎におく本校にとっては重要なことである。

評価・分析（アンケート結果を含む）

教員・保護者と生徒の間にはやや意識の差がある。アンケートの結果を見れば、思いのほか生徒の評価が低い。生徒が回答した肯定的な回答の割合は、49%(高等部の教育はキリスト教が土台になっている)、55%(礼拝の時間は大切である)、58%(聖書の言葉に共感できる)である。これは礼拝・聖書などの大切さを、年齢的にまだ理解しにくいという面が大きいと思うが、生徒に「言葉」が思っているようには届いていないという自覚を教員は持っている。今後はさらに工夫していくべきである。また、「学校外のキリスト教関連団体（教会・ボランティア）との連携・関心」についても生徒の自覚や関心が薄れており、26%しか肯定的な回答をしていない。

改善の具体的方策

学友会役員、宗教部、子ども会などの生徒以外では、「キリスト教関連団体」との接点が少なく、それらを意識する機会が少ないことが一つの原因である。教会出席のあり方、出席方法などの再検討を行い、これらの自覚や関心をさらに持てるように聖書科教員のみならず、全教員が協力しあうことで取り組んでいく必要がある。

【自治活動】

現状の説明

本校における自治活動が、生徒が自分と異なる存在を受け入れ、互いに協力する共同体を形成する手段の一つを意味するならば、もともと多様な価値観を背景に持ち、少子化する家庭環境で育った生徒たちが、生徒会やホームルーム活動を実践してその意義を高める必要がある。そのために様々な工夫をしている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

今回のアンケートによれば、「クラブ活動や課外活動を通して生徒の発育をサポートしている」と強く思っている教員は半数以上(58.3%)おり、「どちらかといえばそう思う」と合わせると 97.2%にのぼる。また「生徒会やホームルーム活動を通して自治活動を実践し、その意義を高める」ことに肯定的な回答をしている教員も大半(97.2%)である。これはかなり高い数字であり、学校の積極的な取り組みを表していると言える。保護者もそれを評価(クラブ活動 86%・自治活動 67.4%)し、生徒も肯定的に受け取っている(クラブ活動 64.9%・自治活動 49.6%)。

ただし、教員の意識と異なり、保護者・生徒の評価はクラブ活動と自治活動の間に差がある。保護者はそれを評価(クラブ活動 86%・自治活動 67.4%)しているが、生徒はクラブ活動については肯定的に受け取っている(64.9%)ものの、自治活動については必ずしも肯定的に受け取っている(49.6%)とは言えない。

他方で、クラブ活動などの課外活動が正課(学習)を妨げているかどうかについては、保護者の 71.6%、生徒の 66.4%が妨げていると答えているが、教員の回答が肯定と否定がちょうど半分ずつ(50%)であり、今後の課題と言える。

改善の具体的方策

まず、学校側の自治活動やクラブ活動・課外活動に対する取り組みを保護者・生徒にさらに理解してもらうための説明や工夫が必要となる。

また半数の教員が、クラブ活動などの課外活動が正課(学習)を妨げていると答えていることに対しては、学業との両立を果たせるような環境作りのために、教師間で意見を交換する必要がある。

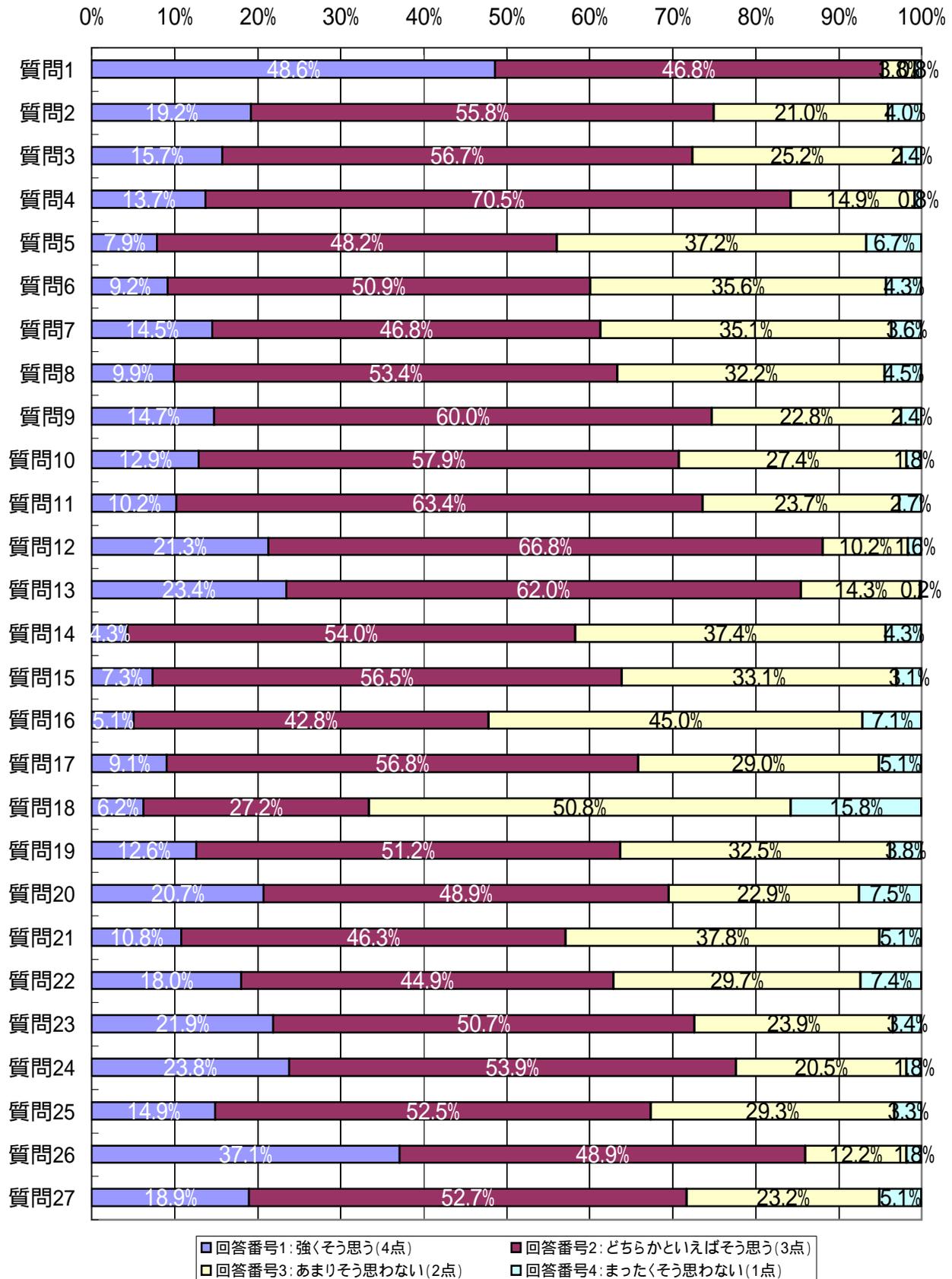
関西学院高等部 2009年度学校評価 実施項目別アンケート結果一覧表

	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
共通 / 独自	学校全般 (追加項目)			1. 生徒は学校に行くのが楽しいと感じている	3.4	1. 生徒は学校に行くのが楽しいと感じている	3.4	1. 学校生活は楽しい	3.2
				2. 高等部の教育は生徒・保護者に対し、満足感を与えている	3.2	2. 保護者として、高等部の教育に満足している	2.9	2. 高等部の教育には満足している	2.7
共通	1. 教育課程・ 学習指導	教育課程についての教職員間の共通理解と連携	教員が教職課程の全体像を理解している。	3. 進級・推薦・卒業などに関する説明を適切に行っている。	3.5	3. 学校から進級・推薦・卒業などに関する説明を適切に受けている。	2.9	3. 進級・推薦・卒業などの規程について適切に理解している。	2.9
			教務部を中心として教員は教育課程について連携を図っている	4. 教育課程の編成や実施について教務部を中心として連携を図っている。	3.2				
		生徒の学力・体力的 確な把握	外部テストの導入などにより、より客観的な学力把握に努めている	5. 外部テストなどを活用して生徒の学力を把握し、その後の指導に役立っている	2.8	4. 学校は、生徒の学力・体力を的確に評価している	3.0	4. 実力テスト・GTECなどの外部テストは、自分の学力分析やその後の学習に役立っている	2.6
			教員は学力評価についての理解向上に努めている	6. 生徒の学力・体力的的確な評価に努めている	3.1			5. 自分たちの学力・体力は的確に評価されている	2.7
			教員は体力評価についての理解向上に努めている						
		各教科の特性に応じた 授業の工夫	教員は自らが担当する教科の特性を理解している	7. 授業を通じ、生徒に適正な学力を定着させている	3.0	5. 学校は、授業を通じ、生徒にしっかりした学力の定着をはかっている	2.6	6. 授業を通じ、学力がついている	2.6
			より質の高い授業を目指して、教員は不断の研究を行っている	8. 質の高い授業を目指し、授業研究を十分に行っている	3.1			7. 全体的にわかりやすい授業が多い。	2.5
		個々のニーズや興味関心 に応じた授業展開	知的好奇心の喚起に留意した授業が行われている	9. 授業研究の成果を活かし、授業改善の工夫を行っている	3.0	6. 学校は、補習・選択授業を通じ、生徒の個性・能力に応じた学びを展開している	2.6	8. 興味深い内容のある授業がある	2.9
			学齢に応じて選択授業が展開されている	10. 補習・選択授業を通じ、生徒の個性・能力に応じた学びを展開している	3.1			9. 選択授業は充実している	2.6
			補習など特別な学習機会が提供されている					10. 補習などは適切に行われている	2.6
		接続学部との連携	初等部と中学部との連携がされている	11. 学校は大学・学部に関する情報を生徒に適切に提供している	3.3	7. 学校は、大学・学部に関する情報を適切に提供している。	2.7	11. 大学・学部に関する情報を知り、進路について考える機会がある	2.9
			中学部と高等部の連携がされている	12. 高等部は中学部と適切に連携を図っている	2.3				
			高等部と大学の連携がされている	13. 高等部は大学・学部と適切に連携を図っている	2.6				

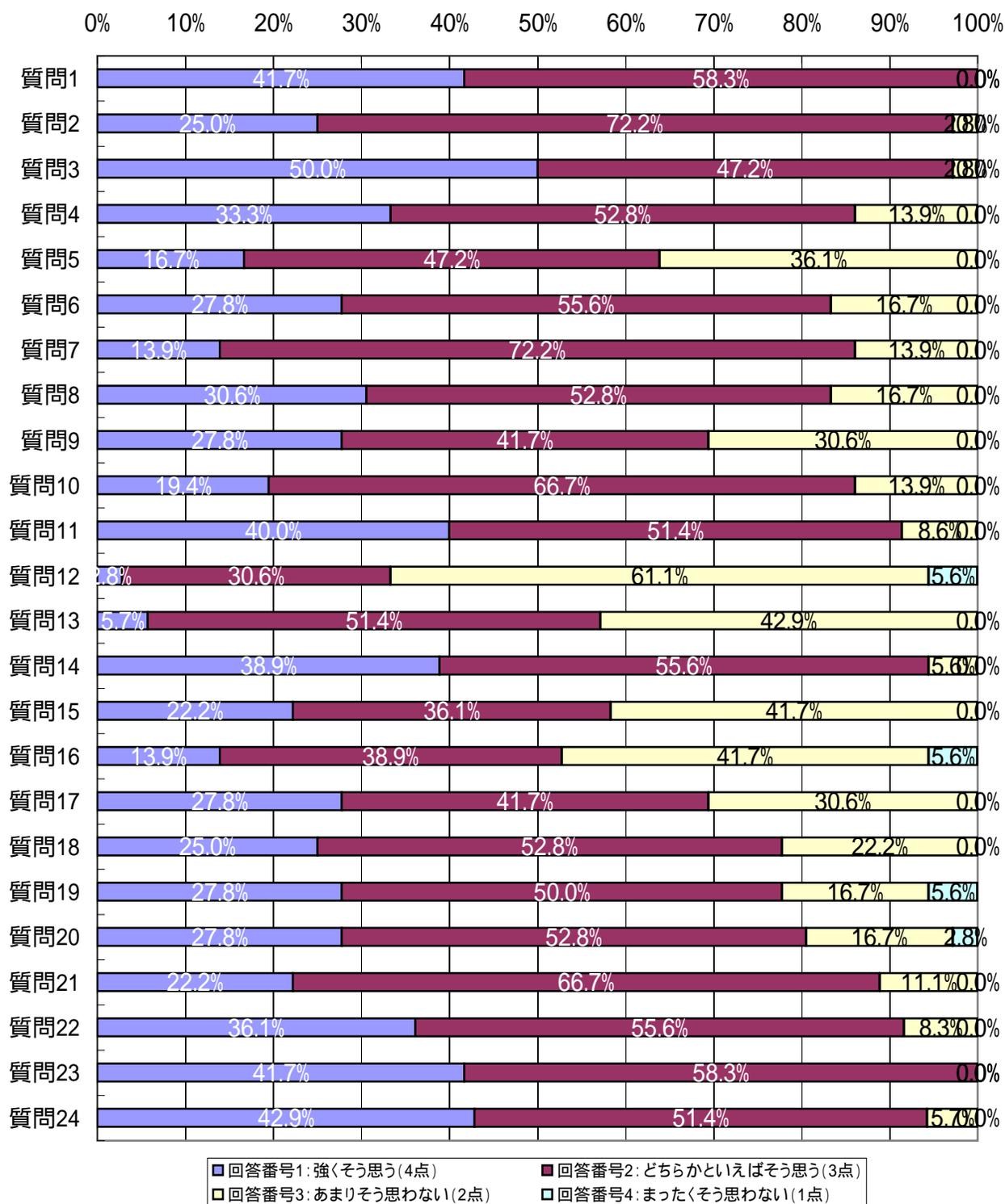
大項目	小項目	目標	アンケート							
			教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点		
共通	3.生徒指導	学校生活の尊重	H R担任、クラブ顧問は、担当生徒の生活状況に細かく目を配る	14. 教員はクラス担任・クラブ顧問として生徒とのコミュニケーションを取り、生活状況などに配慮している	3.3	8. 学校において、教師と生徒とのコミュニケーションが十分とれている	2.7	12. 担任やクラブ顧問とのコミュニケーションが十分取れている	2.7	
			挨拶・時間厳守・美化等、学校生活の基本となる事柄を大切にしている。	15. 挨拶・時間厳守・美化など、学校生活の基本ルールを適切に指導している。	2.8	9. 学校は、挨拶・時間厳守・美化など学校生活の基本ルールを適切に指導している	2.9	13. 挨拶・時間厳守・美化など学校生活の基本が適切に指導されている	2.5	
			礼拝・授業を大切にし、それに取り組む正しい姿勢の育成に努める							
		規範意識の涵養	守るべきルールとマナーを明示し、日々の指導をきめ細かくおこなう	16. 守るべきルールやマナーを明示し、日々の指導をきめ細かく行なっている	2.6	10. 学校は、生徒が高校生として規則正しい生活が送れるよう指導している	2.8	14. 守るべき学校生活のルールやマナーがはっきりしている	2.4	
			状況を弁え、周囲に配慮して行動できる、よき社会人の育成を図る	17. 状況をわきま周囲に配慮して行動できる、よき社会人の育成を図っている	3.0					
			不正を憎み、弱い者を守ろうとする、公正と思いやりの心を育てる	18. 不正やいじめを許さない強い姿勢を生徒に示している	3.0					15. 学校は、不正やいじめを許さないよう指導している
		問題行動への対応	問題を早期に見つけられるように教師間で情報を収集し、その共有を図る	19. 生徒の問題行動などの早期発見に努め、教員間で情報の共有を図っている	3.0	11. 学校は、生徒のトラブルや問題行動などに対して、迅速かつ的確な対応をしている	2.8	16. 学校は、問題やトラブルが起こった際、適切な対応をしている	2.6	
			問題行動に対して、迅速かつ平等性のある適切な指導・訓戒を行う	20. 生徒の問題行動などに対し、迅速かつ適切な指導を行っている	3.1					
			教師・保護者間で情報交換と共通理解ができるよう普段から努める	21. 保護者との間で生徒に関する情報交換を適切に行っている	3.1					
	共通	5.安全管理	校舎内における安全管理	授業やクラブ練習などにおける安全管理ができています	22. 生徒が安全に活動できるように指導ができています	3.3				
				ケガなどが起こったときに適切な対応・応急処置ができています	23. ケガなどが起こったときに適切な対応・応急処置ができています	3.4	12. 学校は、生徒がケガをしたときなどに迅速かつ適切な対応をしている	3.1	17. 学校は、ケガをしたときなどに迅速かつ適切な対応をしている	2.9
				病気などが拡大しないように注意を払い、適切な対策が取れています	24. 病気などが生徒や教師に拡大しないように普段から心がけている	3.4	13. 学校は、インフルエンザが拡大しないように適切な指導や判断ができています	3.1	18. 学校は、インフルエンザが拡大しないように適切な指導や判断ができています	2.8
校舎外における安全管理			登下校時の安全指導ができています	25. 生徒の通学に対して、危険と思われることに注意ができています	2.7	14. 学校は、登下校時、安全な通学に気を配っている	2.6	19. 登下校時、安全な通学ができています	2.8	
			クラブなどの対外的な試合などにおける安全管理ができています	26. 校外活動における安全指導について、適切な指導ができています	3.1	15. 学校は、校外での活動において、生徒の安全をよく考えています	2.7	20. 学校は、クラブ活動など校外での活動の際、生徒の安全に気を配っている	2.7	
			学校に無関係な人や不審者の校舎内侵入に、適切な対応ができます	27. 監視カメラや巡回警備員は防犯の役に立っています	2.9	16. 学校は、不審者の校舎侵入などに適切な対策を行っています	2.5	21. 監視カメラや巡回警備員は防犯の役に立っています	2.6	
共通	8.研修(資質向上の取組)	校内・外における研修会の参加	研修会に積極的に参加している	28. 校外での研修会に参加し、知識・技能などを習得しようと努めている	2.8	17. 教員は、自己研鑽に励み、教員として指導力の向上に努力している	2.7	22. 先生は自己研鑽に励み、教員として指導力の向上に努力している	2.4	
			研修会で得られたことが、授業や他の活動において活用されています	29. 研修会で得られたことを、授業や他の活動において積極的に活用している	2.9					
		外部への発信	研究したことなどを外部へ発信しているか	30. 自分で研究・調査したことなどを外部へ発信している	2.9	18. 教員が研究したことなどを、メディアなどを通じて見聞したことがある	2.2	23. 先生が研究したことなどを、メディアなどを通じて見聞したことがある	2.1	

	大項目	小項目	目標	アンケート									
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点				
共通	10. 情報提供	対外的な情報提供	本校への受験を考えている中学生に分かりやすく説明ができる。	31. 入試説明会やクラブ指導中などに、中学校や中学生からの質問に正しく答えられる	3.3	19. 受験する際に、学校から提供された情報は役に立った	2.7	24. 受験する際に、学校から提供された情報は役に立った	2.4				
			卒業生に対して本校の情報などを適切に提供できる	32. 卒業生からの問い合わせに適切に説明でき、ホームページなどの媒体を通じて適切に情報を提供している。	3.0								
			他校の教員や生徒、一般向けに情報提供ができる。	33. 他校の教員や生徒、一般に向け、本校の方針やイメージをつまく伝えられている。	3.2								
		保護者・生徒向けの情報提供	日常的な学校生活の中で、適切に情報を提供されている。	34. 日常的な学校運営で、生徒に対する学校の情報や業績を明確に伝達できている	3.2	21. 学校から提供される情報や業績について、ご息との会話などにおいてよく聞いている	2.6	26. 学校から提供される情報や業績について、家族の人に話をする	2.6				
			クラスだけの雰囲気だけでなく、学年や学校全体の雰囲気・流れなどを情報として提供する。	35. クラスや学年において、生徒や保護者向けの通信類が発行できている	3.2					22. クラスに関する通信類は情報を得るのに役立っている	2.7	27. クラスに関する通信類は情報を得るのに役立っている	2.5
			保護者や生徒との意思疎通がうまくできている。	36. 保護者や生徒との面談などを通じて、適切に情報提供ができています。	3.2								
独自	キリスト教主義教育の実践	キリスト教主義教育の理念の共有	教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している	37. 教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している	2.8	24. 学校が実施しているキリスト教主義教育は、子どもの人間的成長に寄与している	3.0	29. 高等部の教育にとって、キリスト教はその土台であると思う。	2.4				
			キリスト教主義的人間理解を基に日々の教育活動を行っている	38. キリスト教的人間理解を基に日々の教育活動を行っている	2.8								
			教員がキリスト教主義教育への理解を深める環境にある	39. 教員がキリスト教主義教育への理解を深める環境にある	2.8								
		キリスト教主義教育の推進	礼拝を学校の重要な柱として守っている	40. 学校は礼拝を教育の重要な柱とし、教員はそれを意識して守っている	3.2			30. 礼拝の時間は大切だと思う。	2.5				
			生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムを実施している	41. 学校は生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムを実施している	3.2					31. 聖書の言葉には共感できる部分がある	2.6		
			生徒に教会出席を奨励している	42. 学校は生徒に教会出席を奨励している	3.0								
		キリスト教関係団体との連携	教会など他のキリスト教関係団体から礼拝の奨励者を招いている	43. 学校は教会など他のキリスト教関係団体から礼拝の奨励者を招いている	3.3			32. 学校外部のキリスト教関連団体（教会・ボランティア）に関心を持っている	2.0				
			教会などキリスト教関係団体を通じてクリスマス献金を広く献げている	44. 学校は教会などキリスト教関係団体を通じてクリスマス献金を広く献げている	3.4								
			キリスト教諸団体と種々の連携を図っている	45. 学校はキリスト教諸団体と種々の連携を図っている	3.0								
独自	自治活動	自治・課外活動の充実	生徒会やHR活動を通じて自治活動を実践し、その意義を高める	46. 生徒会やHR活動を通して、自治活動への取り組みを促進させている	3.4	25. 学校は、学友会やHR活動を通して、生徒に自治活動への取り組みを意識付けしている	2.8	33. 学校は、学友会やHR活動を通して、生徒に自治活動への取り組みを意識付けしている	2.5				
			クラブ活動や校外研修など課外活動を充実させる。	47. クラブ活動や校外研修など課外活動を通して、生徒の心身における発育をサポートしている	3.6					26. 学校は、クラブ活動や校外研修など課外活動を通して、生徒の心身における発育をサポートしている	3.2	34. 学校は、クラブ活動や校外研修など課外活動を通して、生徒の心身における発育をサポートしている	2.7
			課外活動は、正課（学習）を妨げない	48. クラブ活動・校外研修などの課外活動は、正課（学習）を妨げていない	2.5								

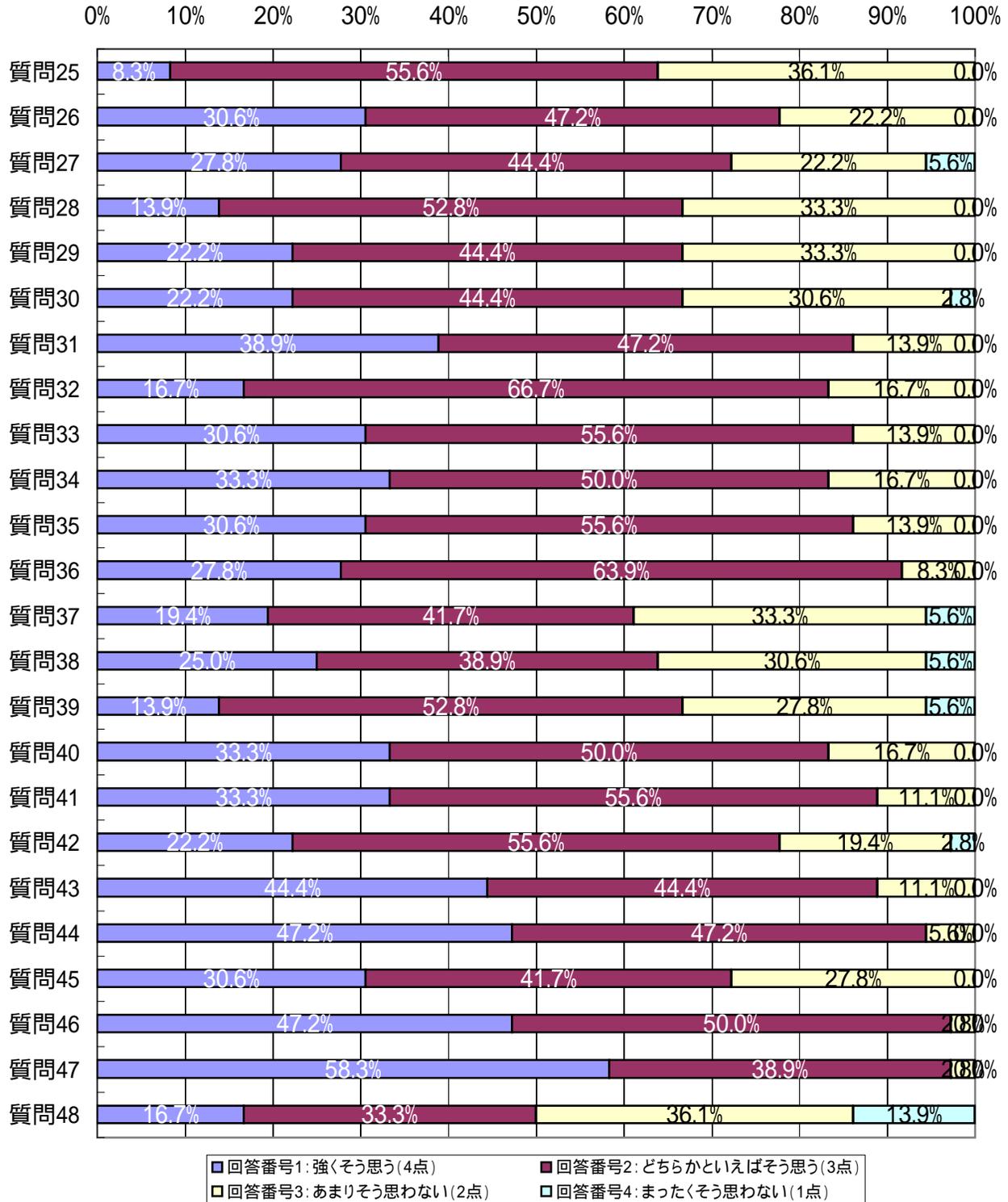
学校評価アンケート集計結果
(高等部・保護者)



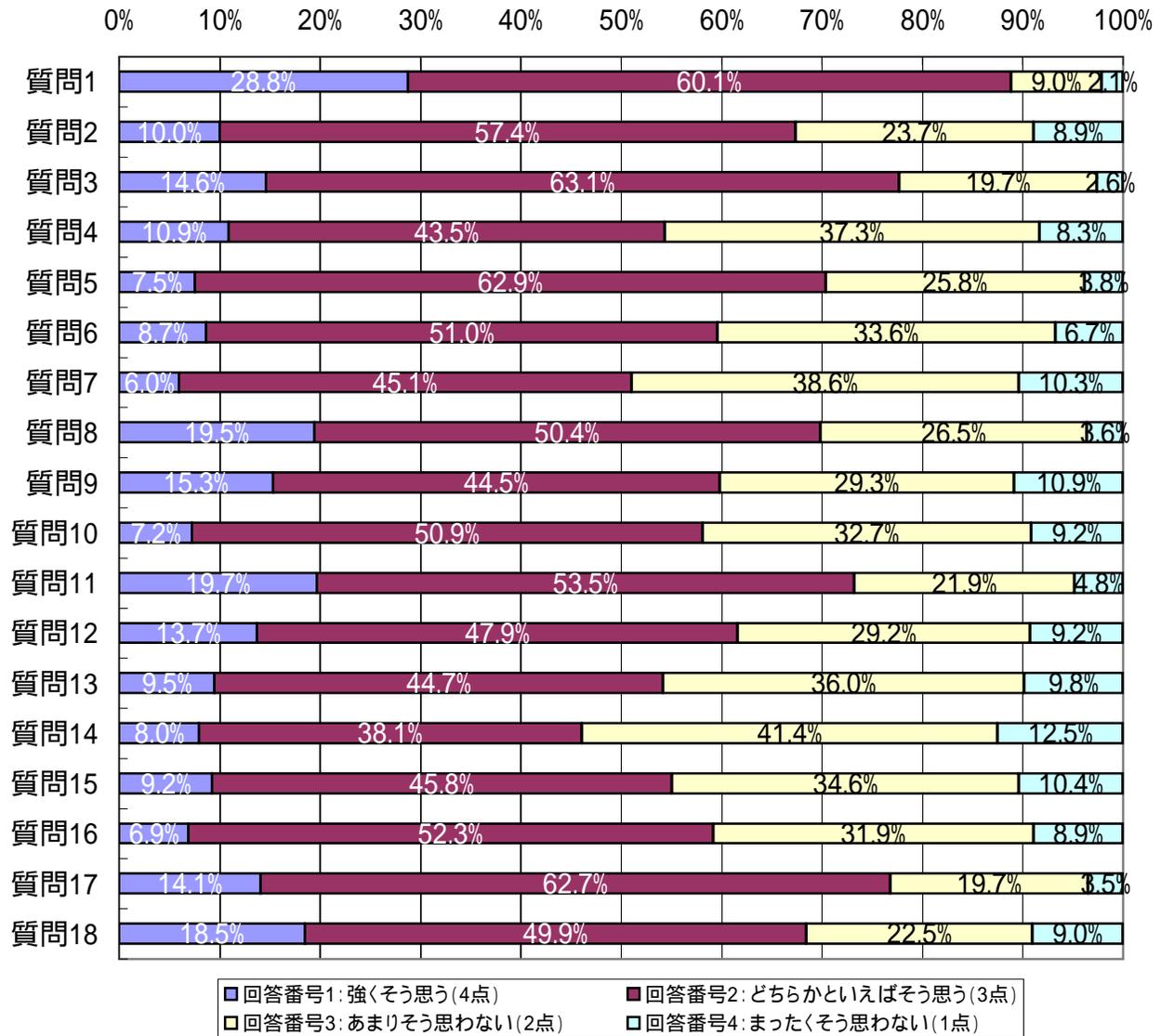
学校評価アンケート集計結果
(高等部・教員 質問1～24)



学校評価アンケート集計結果
(高等部・教員 質問25～48)



学校評価アンケート集計結果
(高等部・生徒 質問1～18)



学校評価アンケート集計結果
(高等部・生徒 質問19～35)

